

第4次砺波市地域福祉活動計画

令和4年度評価

令和5年6月

社会福祉法人 砺波市社会福祉協議会

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和4年度評価（報告）

1 砺波市地域福祉活動計画

第4次砺波市地域福祉活動計画（以下「地域福祉活動計画」という。）は、「互いに助けあい 励ましあう あたたかいまちづくり」の実現に向けて、地域住民が主体となり地域福祉を推進していくための活動の方向を示した5か年（令和3年度から令和7年度まで）計画です。

2 砺波市地域福祉活動計画の評価

この評価は、地域福祉活動計画に掲げる各実施計画に対して行うものであり、砺波市地域福祉活動計画評価委員会（以下「評価委員会」という。）において、令和4年度の事業実績及び計画の進捗状況について評価・検証いただくものです。

3 第4次砺波市地域福祉活動計画 令和4年度の評価の方法

（1）砺波市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）において、11の実施計画の令和4年度における実施状況等を確認し、以下のとおり、4段階評価の自己評価を行いました。

（2）市社協の自己評価をもとに、評価委員会（令和5年5月16日開催）にて実施状況等を評価・検証し、以下のとおり、4段階評価の総合評価を行いました。

4段階評価

| | |
|---|------------------------|
| 3 | 計画どおり進んでいる。 (8割以上) |
| 2 | 概ね計画どおり進んでいる。 (7～8割程度) |
| 1 | あまり進んでいない。 (4～6割程度) |
| 0 | 進んでいない。 (3割以下) |

4 評価の結果（まとめ）

評価結果は「評価シート」のとおりです。

5 令和4年度の評価を踏まえて

市社協では、この評価を踏まえ、評価シートの「今後の方向性」で示した部分を重点事項として、令和5年度事業計画の実施と地域や関係機関と一緒に福祉課題の解決に向けて取り組み、地域福祉活動計画の推進を図っていきます。

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和4年度評価シート①

| | | |
|----------------|------|--|
| 地域福祉活動 計画体系 | 基本目標 | 1 住民主体の地域づくり |
| | 方向性 | (1) 組織の充実と地域福祉に対する意識の醸成 |
| | 推進目標 | ① 地区福祉推進協議会と連携し地域課題の解決につなげます |
| | 実施計画 | 地区福祉プランの支援 |
| | ねらい | 策定された地区福祉プランを基に、各地区での福祉活動の推進に向け支援することで、地域課題の解決と福祉への意識付けにつなげます。 |

| 指標の名称 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
|-------------------|-----------------------|-------|-------|-----|-----|-----|
| 成果を 図る主 な指標 | 計画の説明会を開催した地区数(評価も含む) | 18 地区 | 20 地区 | | | |
| | 地区懇談会等へ社協職員の出席回数 | 65 回 | 71 回 | | | |

| | |
|------------|--|
| 主な 取り組み | <p>■各地区福祉プラン実施に向けての活動支援協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4次砺波市地域福祉活動計画の推進を図るため、計画の説明ができていなかった地域に出向き計画の説明を行った。(社協) ・各地区を回り、地区の方々と一緒に地区福祉プランの1年目の進捗状況を確認し、今後の取り組みや課題について検討した。(地区と社協) ・モデル事業として3地区で社協職員が出張する相談窓口「CSW 出張相談」の実施を地区の方々と一緒に取り組んだ。人が集まる場での相談窓口とあって、個人の困りごとから地域課題の相談と色々な相談が見られた。(3地区と社協) ・福祉サポーター研修やケアネット研修、地区懇談会など地域課題を話し合う機会が増えてきた。(地区と社協) <p>主な地区福祉プラン支援：</p> <p>梅檀野地区：多様な人が集まる場所にしたい。⇒地域の人が集まる「せんだんの HILL」で障がい者の生活訓練の実施と障がい者と地域住民の芋ほり&焼き芋体験を実施</p> <p>梅檀山地区：山間部で外出が大変、移動手段を検討したい。⇒福祉バスを活用し、ショッピングセンターに買い物ツアーを実施</p> <p>梅檀山地区：高齢化率が高く、老々介護せざるをえない。⇒男性も介護ができるよう男性の介護教室を実施</p> |
|------------|--|

| | | |
|----------|---|------|
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・地区福祉プランの1年目の進捗状況を確認できた。地区福祉プランがあることで、地域でやるべきことが「見える化」できたことと、取り組みへの「意識付け」になったことが成果として挙げられる。課題としては、コロナ禍でイベントができなかったことと地域住民への周知が足りないことが挙げられる。 ・モデル事業を通して、地域に埋もれていたケースや困りごとが表面化し、解決や継続支援につながった。その結果から地域の方も身近な相談窓口の重要性を認識し、住民主体の相談窓口の設置へと取り組みが進んだ。 ・地域課題を一緒に取り組んだことで、好事例として挙げられる取り組みができた。 | 社協判定 |
| | | 3 |
| 評価委員会の意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・「CSW 出張相談」は良い取り組みで、地域住民が主体となる「地域なんでも相談」へと進んできたことは評価できる。他の地区でもこのような取り組みができるよう進めていってほしい。 ・地区福祉プランの進捗状況の確認は重要である。地域の課題の買い物や介護について、解決に向けた取り組みができたことは評価できる。今後も続けてほしい。 | 総合判定 |
| | | 3 |

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

| | |
|--------|--|
| 今後の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・「CSW 出張相談」の取り組みを他の地区に紹介し、実施に向けて地区と協議を図っていく。 ・「地域なんでも相談」の取り組みが安心して実施できるよう、地区の意見や実施状況を確認しながら支援していく。 ・地区福祉プランの進捗状況を確認するとともに課題解決の好事例を紹介し、地区福祉プランの実施を推進していく。 |
|--------|--|

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和4年度評価シート②

| | | |
|----------------|------|---|
| 地域福祉活動 計画体系 | 基本目標 | 1 住民主体の地域づくり |
| | 方向性 | (1) 組織の充実と地域福祉に対する意識の醸成 |
| | 推進目標 | ② 福祉を身近なものに感じてもらえるよう福祉教育の充実を図ります |
| | 実施計画 | 福祉教育の充実【重点計画】 |
| | ねらい | 子どもから大人まで、福祉について知る機会を多くつくり、福祉に関心を持つ人を増やします。 |

| 指標の名称 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------------------|--------------------|-----|-----|----|----|----|
| 成果を 主たる 指標 | 小中学校等への授業への協力回数 | 14回 | 20回 | | | |
| | 地域や企業に向けた出前講座の実施回数 | 3回 | 11回 | | | |

| | | | | | | |
|------------|--|--|--|--|--|--|
| 主な 取り組み | <p>■福祉教育プログラム検討会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉教育推進検討委員会を開催し、地域共生社会の実現に向けた福祉教育の方向性を「福祉教育の基本方針」として作成した。(福祉教育推進検討委員会と社協) 障がい当事者、企業と一緒に福祉教育プログラムを検討し、実践した。(障がい者と企業、社協) 各小中学校に対して、福祉教育のプログラムの提案を行った。また、福祉の授業を行う際は、その都度、学校とプログラムについて協議し実践した。新たな取り組みにも挑戦した。(学校と社協) | | | | | |
| | <p>■地域や企業に向けた出前講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ふれあい・いきいきサロンや市内企業、各地区福祉推進協議会等に出前講座の一覧を配布し、出前講座の活用の働きかけを行った。(法人連絡会と社協) 地域の方と一緒に企画し、車いすの使い方や体験の講習会、認知症、男性介護教室を開催した。(地域住民と社協) となみセントラルライオンズクラブ、となみ青年会議所、民生委員児童委員、各自治会を対象に災害救援ボランティアセンターネットワーク構築研修会を開催した。(企業と地区、社協) 地区福祉推進協議会等で、社協や市内の福祉事業、認知症などをテーマに研修会を行った。(地区と社協) | | | | | |

| | | |
|--------------|---|------|
| 成果と課題 の意見 | <p>福祉教育推進検討委員会を開催し、「福祉教育の基本方針」を作成することができた。地域共生社会の実現に向けての福祉教育の目的や役割等を4つの柱で示すことができた。今後は、この「福祉教育の基本方針」を踏まえた福祉教育のプログラムを実施していくことが重要と考える。</p> <p>高齢化率が高く、老々介護が地域の課題となっていることを踏まえた出前講座を開催することができた。</p> <p>中学校の福祉教育の授業では、父兄にも参加してもらおう形で実施することができた。</p> | 社協判定 |
| | <p>「福祉教育の基本方針」が策定されたことは評価できる。この方針に沿って福祉教育を推進して行ってほしい。</p> <p>学校で父兄参加の福祉教育ができたことは良い。大人への福祉教育の機会がまだ少ないので、機会を増やして行ってほしい。</p> <p>子どもが考え、体験する機会を多く作ってほしい。そして、実際の活動につながると良い。</p> | 総合判定 |

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

| | |
|------------|---|
| 今後の 方向性 | <p>「福祉教育の基本方針」に沿った、子どもも大人も学ぶ福祉教育を実施していく。</p> <p>福祉教育推進委員会を開催し、実施した福祉教育プログラムが「福祉教育の基本方針」に沿っているか検証し、効果的な福祉教育の実施につなげる。</p> |
|------------|---|

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和4年度評価シート③

| | | |
|----------------|------|---|
| 地域福祉活動 計画体系 | 基本目標 | 1 住民主体の地域づくり |
| | 方向性 | (2) 活動の中心となる担い手の育成 |
| | 推進目標 | (3) 地区の福祉活動者の支援を行います |
| | 実施計画 | 「我が事情報」の勉強会の開催 |
| | ねらい | 将来の自分に役立つ情報を知るとともに、見守る側、お手伝いする側としての知識を広げます。 |

| 指標の名称 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
|-------------------|--|-----|-----|-----|-----|-----|
| 成果を 図る主 な指標 | 福祉活動者向けの研修会の開催回数 | 13回 | 35回 | | | |
| | | | | | | |
| 主な 取り組み | ■地区の福祉活動者向けの福祉に関する研修会の開催 ・民生委員児童委員の定例会にて、社協の事業についてミニ研修を開催した。(民児協と社協) ・地域福祉コーディネーター連絡会を3回開催した。(コーディネーターと社協) ・自治会長や福祉サポーター等が参加するケアネット会議や研修会を15回開催した。(地区と社協) ・地区福祉推進協議会等で福祉サポーターの研修会を16回開催した。(地区と社協) ・民生委員児童委員、地域福祉コーディネーター等が参加するケアネット研修会シンポジウム(98人)とケアネット推進会議(71人)を開催した。(福祉活動者と福祉関係者、社協) | | | | | |
| | ■地区福祉推進協議会に出向き、住民への福祉情報の提供 ・ボランティア養成講座や福祉イベント等の情報を各地区に配布し、地区住民に回覧板として周知をお願いした。(地区と社協) ・地区福祉推進協議会の総会やケアネット会議など自治会単位の研修会などで、福祉の現状、社協の役割や事業の説明などを行った。(地区と社協) | | | | | |

| | | |
|-------|--|------|
| 成果と課題 | ・ケアネットに関する研修会等において、実践事例の紹介や事例を通しての意見交換を行った。他の地区の取組みを知ることができたことと、事例を紹介したことで役割の理解が進んだと参加者からの意見があった。また、研修会に自治振興会の方々にも参加していただいたことで、福祉活動者だけでなく地域全体の理解につながったと考える。 ・地区や自治会単位で福祉サポーターの研修会を開催してきたが、すべての福祉サポーターに対してはできていない。社協と福祉サポーターとの接点が少ないことが課題として挙げられる。 | 社協判定 |
| | ・研修会や勉強会が多く開催したことと実践につながる内容は評価できる。研修後の取組みが重要なので、どのように活動につなげていくかを検討してほしい。 ・福祉サポーターの役割が曖昧であることと、民生委員児童委員、地域福祉コーディネーター、福祉サポーターの3つの繋がりがまだ弱いと感じる。連携を強めていってほしい。 | 総合判定 |

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

| | |
|--------|---|
| 方向性の今後 | ・民生委員児童委員、地域福祉コーディネーター、福祉サポーターの3者が集まる懇談会等の開催を各地区に提案していく。 ・各地区の福祉サポーターの活動状況を把握し、好事例を他地区に紹介していく。 |
|--------|---|

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和4年度評価シート④

| | | |
|----------------|------|--|
| 地域福祉活動 計画体系 | 基本目標 | 1 住民主体の地域づくり |
| | 方向性 | (2) 活動の中心となる担い手の育成 |
| | 推進目標 | ④ 福祉活動の担い手の育成と新たな人材の掘り起こしを行います |
| | 実施計画 | 地域を支える人材の発掘と育成【重点計画】 |
| | ねらい | 地域で行われている福祉活動について知ってもらい、世代を問わず、地域で活躍する新たな人材発掘につなげます。 |

| 指標の名称 | | R 3 | R 4 | R 5 | R 6 | R 7 |
|---------------|----------------------|------|--------|-----|-----|-----|
| 成果を図る 主な指標 | 福祉活動者数(ケアネット等参加延べ人数) | 592人 | 1,012人 | | | |
| | 福祉サポーター数 | 396人 | 374人 | | | |
| | ボランティア養成講座受講者数 | 34人 | 23人 | | | |

| | | |
|--------|--|--|
| 主な取り組み | ■現在行っているボランティア活動や地域の福祉活動者の情報を発信 | |
| | ・市内ショッピングセンターでボランティア活動紹介展を開催し、ボランティア体験コーナーの実施や活動写真パネルを展示した。(ボランティアと社協) | |
| | ・広報やホームページ、SNSでボランティア活動の情報を発信した。(社協) | |
| | ・広報で地域福祉コーディネーターと福祉サポーターの役割等について発信した。(社協) | |
| | ■地区の福祉活動を発信し協力者を発掘 | |
| | ・令和4年度からの新たな任期の福祉サポーターに374人中172人が新規で登録された。(地区と社協) | |
| | ■地区内の専門分野で活躍する人材の把握と活用 | |
| | ・福祉教育推進検討委員会で福祉サポーターの発掘と育成について協議した。(福祉教育推進検討委員会と社協) | |
| 成果と課題 | ■地域の福祉活動者への福祉情報の提供 | |
| | ・民生委員児童委員の定例会にて、社協の事業についてミニ研修を開催した。(民児協と社協) | |
| | ・地域福祉コーディネーターに対し、福祉情報の提供や他地区の取組みを伝えた。(コーディネーターと社協) | |
| | ・ケアネット会議等に集まった福祉サポーターに対し、事業や市内の福祉についての情報を発信した。(福祉サポーターと社協) | |

| | | |
|-------|---|----------------------|
| 成果と課題 | ・福祉教育推進検討委員会で、福祉サポーターの育成において、気軽にできる活動の事例紹介や福祉サポーター同士で話し合う機会を作ること、民生委員児童委員との交流会を開催することが重要であるとご意見をいただいた。このような機会を得るために地区にどのように働きかけていくかが課題である。 ・ショッピングセンターでのパネル展示を見た方からボランティア活動への参加申し込みがあった。また、広報やホームページを見て、生活支援員への応募やボランティア活動への問い合わせがあり、新たな人材を発掘するには色々な形での福祉活動の情報発信が重要であると考えます。 | 社協判定 2 |
| | ・ショッピングセンターでのパネル展示でボランティアの応募につながったことは素晴らしい。色々な場所でパネル展示等を広く市民に情報発信を行ってほしい。 ・どのような福祉人材が必要なのか明確にして、それに対して、講座の企画や情報発信をしていくことが重要である。 | 総合判定 2 |

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

| | |
|--------|---|
| 今後の方向性 | ・地域課題を把握し、その課題の解決に必要な人材を明確にするとともに、情報発信を行い新たな人材の発掘につなげていく。 |
|--------|---|

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和4年度評価シート⑤

| | | |
|----------|------|---|
| 地域福祉計画体系 | 基本目標 | 2 みんなで支える地域づくり |
| | 方向性 | (1) ボランティア活動の推進 |
| | 推進目標 | ⑤ ボランティア活動者の活躍の場を広げます。 |
| | 実施計画 | ボランティア活動の推進 |
| | ねらい | ボランティアを身近に感じられる体制づくりや、ボランティア活動の紹介などを通して活動の場を拡充していくなど、ボランティアセンターの機能の強化を図ります。 |

| 指標の名称 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---------------|--|---------|---------|----|----|----|
| 主な指標 成果を図る | ボランティア登録者数 | 4,825人 | 4,461人 | | | |
| | レッツボランティア となみポイント制 | 11,527人 | 12,147人 | | | |
| | シニア元気あっぷポイント事業 | 2,006人 | 1,597人 | | | |
| 主な取り組み | ■SNS等を活用したボランティア情報の発信 ・ホームページでボランティア募集情報を発信した。(社協) ・ボランティア活動者向けにSNSの活用についての講座を開催し、活動の積極的な情報発信を促した。(市と社協) | | | | | |
| | ■企業と連携した啓発活動の推進 ・ショッピングセンターで「となみSDGs WEEK2022 パネル展示」や「ボランティア活動紹介展」を開催し、ボランティア体験コーナーの実施や活動写真パネルを展示した。(ボランティアと社協) | | | | | |
| | ■生涯学習としてのボランティア活動の推進 ・手話奉仕員養成講座(基礎コース)を開催した。(社協) ・3つのボランティア養成講座を開催した。(ボランティアと社協) | | | | | |
| | ■専門分野で活躍する人材の把握と活用 ・小学校での出前講座では、市内で活躍するボランティアに活動の様子を話してもらった。(学校とボランティア、社協) ・パラリンピック選手に小中学校で福祉教育の講師となってもらった。(学校と障がい者、社協) ・ボランティアスクールで、ボランティア活動者に講師となってもらい中学生と交流を行った。(中学生とボランティア、社協) | | | | | |
| | ■ニーズに応じたボランティア養成講座の開催 ・移動支援が必要な方のための「ふれあい号運転ボランティア養成講座」を開催した。3名の登録があった。(社協) ・介護予防推進のための「脳トレリーダー養成講座」を開催した。(ボランティアと社協) ・広く多くの方へ情報発信するための「これからはじめる情報発信講座」を開催した。(社協) | | | | | |
| | ■短時間ボランティア、自宅で出来るボランティアなど新たなボランティア活動の仕組みづくり ・フードドライブの実施を支援し小さなボランティア活動を推進した。(企業と社協) | | | | | |

| | | |
|-------|--|------------------|
| 成果と課題 | ・ニーズに即したボランティア養成講座を開催できた。脳トレリーダー養成講座には10名の方が受講されたが、1名しかボランティア活動につながらなかった。ボランティアグループの活動日などが合わなかったことが理由である。受講された方が、活動につながる仕組みや支援が課題である。 ・コロナ禍で施設でのボランティア活動ができていない。 ・ふれあい号運転ボランティアに新たに3名の登録・活動があった。 | 社協判定 2 |
| | ・新たな養成講座の開催や、講座が複数あり選択し受講できたことは良い。養成講座を受講された後、ボランティアのグループ化されるよう支援が必要である。 ・ボランティアポイントについて、わかりにくいことや手続きが面倒なこと、不公平感があり、改善が望まれる。 | 総合判定 3 |

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

| | |
|--------|---|
| 今後の方向性 | ・地域ニーズを把握し、そのニーズに対応するボランティア養成講座を開催するとともに、活動できる場を提案していく。 |
|--------|---|

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和4年度評価シート⑥

| | | |
|----------|------|---|
| 地域福祉計画体系 | 基本目標 | 2 みんなで支える地域づくり |
| | 方向性 | (2) 地域における絆の強化 |
| | 推進目標 | ⑥ 地域について学ぶ場やふれあいの場の充実を図ります |
| | 実施計画 | 地域での交流の場の活性化 |
| | ねらい | 子ども、高齢者、障がい者など、誰もがお互いを尊重し、地域の中で積極的に関わりがもてるような居場所や学びの場を提供し、交流活動を推進します。 |

| 指標の名称 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|-----------------------|-------------|------|------|----|----|----|
| な 図 成 指 標 果 主 を | 子育て支援事業参加人数 | 475人 | 915人 | | | |
| | | | | | | |

| | |
|-----------------------|--|
| 主 な 取 組 み | <p>■子どもや障がい者に対する地域行事などへの参加呼びかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せんだんの HILL で障がい者の陶芸教室を開催し、地域の方がボランティアとして参加した。(障がい者と地域住民、社協) ・せんだんの HILL で障がい者と地域住民と一緒に芋ほりと焼き芋体験を行った。(障がい者と地域住民、社協) ・地域のりんご農家でりんご摘みとアップルパイ作り体験を行い、地域の方と交流を図った。(地域と福祉センター、社協) |
| | <p>■福祉センターを活用し、多様な世代が集う交流拠点となるような場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各福祉センターの特色を活かして、子どもやその親を対象にしたイベントや若い世代も興味もてる講座を開催した。(福祉センター) ・北部苑で若い世代を対象にした「となみほくぶマルシェ」を2回開催した。 ・夏休みななどの長期休みに児童の居場所となるよう、苗加苑と北部苑でわんぱく広場を開催し、ボランティアや福祉センター利用者との交流を図った。(福祉センターと社協) ・百歳体操や健康体操、e スポーツ体験会などを開催し介護予防を推進した。(福祉センター) ・幅広い世代が利用しやすくなるよう Wi-Fi 環境を整えた。(苗加苑) ・地域のボランティアグループの協力のもと親子を対象にしたそば打ち体験を行った。(地域と庄東センター) |

| | | |
|--------------------------------------|--|------|
| 成 果 と 課 題 | <p>・「多様な方が集まる場所にしたい」との地域の思いに対して、障がい者や親子が地域の方と触れ合える機会やイベントと一緒に企画、実施することができた。参加した障がい者は地域の方とのふれあい方や地域の中に役割があることを学べたこと、子どもは障がい者とのふれあい方を学べたと思う。</p> <p>・それぞれの福祉センターが子どもや若い世代に利用してもらえるよう、各福祉センターの特色を活かした取り組みを実施してきたことで、長期休暇や休日に子どもが気軽に利用する姿が多くみられるようになってきた。令和5年4月からは子ども同伴の保護者の利用料を無料とした。しかし、福祉センターの取り組みが、施設のある地域の方に十分に理解されていないとの意見がある。</p> | 社協判定 |
| | <p>・福祉センターに子どもを含む若い世代が気軽に利用できるよう取り組んできたことで、実際に子どもの利用がふえてきたことは大変評価できる。子どもと大人がふれあいを学ぶ場になってほしい。</p> <p>・福祉センターが、子育て支援や学童などの地域課題の解決につながれば良い。</p> | 総合判定 |
| 評 価 委 員 会 の 意 見 | | 3 |
| | | 3 |

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

| | |
|-----------------------|---|
| 方 向 後 性 の | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉センターにおいて、子どもや若い世代向けのイベント情報を積極的に発信し、高齢者だけでなく誰でも利用できることを伝えていく。 ・地区で多様な人が触れ合う場づくりの好事例を紹介し、交流活動を推進していく。 |
|-----------------------|---|

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和4年度評価シート⑦

| | | |
|--------------------------------------|------|---|
| 系 地 域 福 祉 計 画 体 | 基本目標 | 2 みんなで支える地域づくり |
| | 方向性 | (2) 地域における絆の強化 |
| | 推進目標 | ⑦ 支え合う福祉活動を推進します |
| | 実施計画 | 見守り活動の推進【重点計画】 |
| | ねらい | 日常的な住民同士の見守り活動を推進し、お互いさまで支えあう地域づくりを支援します。 |

| 指標の名称 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|--|---------------|---------|---------|----|----|----|
| 標 成 果 を 図 る 主 な 指 針 | ケアネットチーム数 | 206 チーム | 263 チーム | | | |
| | 見守り配食数 | 3,438 食 | 3,184 食 | | | |
| | ふれあい・いきいきサロン数 | 133 サロン | 133 サロン | | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 主 な 取 り 組 み | <p>■学校、家庭、地域が連携して子どもを見守り育ていく環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の多いひとり親世帯に対し、ケアネットチームによる見守りができている。現状確認や今後の方向性などを協議した。(関係機関と地域) ・地区において、子育てボランティアグループが地区の実情に合わせて活動している。(地域とボランティア) |
| | <p>■支援が必要な人への見守り体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に出向きケアネットについて説明を行い、周知と活動への協力をお願いした。(地区と社協) ・広報やFM となみでケアネット活動について発信した。 ・高齢者世帯だけでなく、障がい者や子どもを抱える世帯の支援事例を紹介した。(社協) |
| | <p>■いきがいがづくり、仲間づくりとしての居場所の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい・いきいきサロン代表者交流会を開催し、eスポーツやボードゲームといった新たな活動ツールの提案を行った。(サロンと社協) ・ふれあい・いきいきサロンの活動の参考として、レクリエーションや出前講座等の「おしながき」を配布した。(サロンと社協) ・ふれあい・いきいきサロン訪問を実施し、現状と課題の把握を行った。(社協) ・老人クラブの研修会でケアネットや社協の事業等の説明を行い、連携を図った。(老人クラブと社協) |
| | <p>■研修会等を開催し、推進地区の取り組みの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアネットのシンポジウムや推進会議を開催し、好事例の紹介を行った。(福祉関係者と社協) ・ふれあい・いきいきサロン代表者交流会を開催し、好事例の紹介を行った。(サロンと社協) |
| | |
| | |
| | |

| | | |
|--------------------------------------|---|------|
| 成 果 と 課 題 | <p>・ケアネットの研修等で、好事例の紹介と事例からの演習を行ったことで、ケアネットに取り組んだことがない方からも、「好事例で分かりやすかった」「他の地区の取組みを知ることができてよかった」という意見をいただき、理解が進んだと考える。新任の民生委員児童委員からケアネットに関する相談が増えてきている。</p> <p>・ふれあい・いきいきサロン代表者交流会で、好事例の紹介とeスポーツやボードゲームの紹介をし、参加者に関心を持ってもらえた。コロナ禍で活動を縮小してきたサロンに対して、活動再開や活性に向けてどのような支援が考えられるか検討が必要である。</p> | 社協判定 |
| | | 3 |
| 会 評 価 委 員 の 意 見 | <p>・ひとり親世帯に対するケアネット活動が広まっていけばよい。ケアネット活動において地域差がでないよう取り組むことが重要である。</p> <p>・eスポーツやボードゲームなどの効果的で新しい取組みを行っていることは評価できる。高齢者と子どもが触れ合うツールになると思う。</p> | 総合判定 |
| | | 3 |

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

| | |
|-----------------------|--|
| 方 向 後 の 性 | <ul style="list-style-type: none"> ・ケアネット活動の好事例を紹介し、新たなケアネットチームの立ち上げや住民が協力しやすい活動の参考となるよう支援していく。 ・障がい者や子育て世代に対してのケアネット活動の事例を紹介していく。 |
|-----------------------|--|

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和4年度評価シート⑧

| | | |
|----------|------|---|
| 地域福祉計画体系 | 基本目標 | 3 安心して暮らせる地域づくり |
| | 方向性 | (1) 相談支援体制の充実 |
| | 推進目標 | ⑧ 複雑に重なりあう困りごとに対応していきます |
| | 実施計画 | 複合的な課題に対する相談支援体制の強化【重点計画】 |
| | ねらい | 多様な生活課題に対応していくために、各種専門機関と連携し、身近で気軽な相談場所の設置と、適切な助言と支援を受けることができるよう体制を整備します。 |

| 指標の名称 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---------------|-------------------|--------|--------|----|----|----|
| 主な指標 成果を図る | 事例検討会の開催回数 | 11回 | 8回 | | | |
| | 福祉総合相談件数 | 4,645件 | 5,172件 | | | |
| | 生活困窮者自立支援事業新規相談件数 | 59件 | 50件 | | | |

| | |
|--------|--|
| 主な取り組み | <p>■福祉総合相談事業の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報、社協ホームページ、地域の掲示板などで相談会の案内をした。(社協) ・3地区で社協職員が出張して行う身近な相談窓口「CSW出張相談」について、回覧板にて周知した。(地区と社協) |
| | <p>■事例検討会や勉強会を通し各相談機関とのネットワークを強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度から生活困窮者の相談窓口を社協で行うための体制作りを行った。(市と社協) ・相談支援事業所、福祉関係者、地域の方、弁護士等に出席してもらい、複合的な課題を抱える事例の検討を行った。 ・事例検討で出た課題に対して勉強会を開催し、制度の活用について学んだ。(関係機関と市、社協) ・福祉関係機関と行政を対象に重層的支援体制の構築に向けた研修会を開催した。(関係機関と市、社協) |
| | <p>■広報や回覧板、HP、SNSなどを活用し、気軽に相談できる体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3地区で社協職員が出張して行う相談窓口「CSW出張相談」を毎月開設し、地域の身近な相談窓口となった。(地区と社協) ・福祉の情報や相談窓口について、ホームページやSNS、回覧板等で発信した。(社協) |
| | |
| | |
| | |

| | | |
|----------|--|------|
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な相談場所として「CSW出張相談」を実施したことで、アウトリーチ機能が見られ、ひきこもりなどの埋もれていた課題を掘り起こすことができた。それらの課題に対して、関係機関につなぐとともに地域の方と支援につなげることができた。 ・重層的支援体制の構築に向けた研修会で、各分野（高齢、障害、子ども、困窮）の市内の支援体制について意見交換を行ったところ、複合的な課題に対応する中心的な機関・体制が無いことが見えてきた。支援体制の必要性を各関係機関と理解を深めたが、今後どのように構築していくかが課題である。 | 社協判定 |
| | | 3 |
| 評価委員会の意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な相談場所として「CSW出張相談」があることは地域の人にとって心強いと思う。課題の解決は難しいこともあるが、まずは課題に気づくことが重要である。 ・複合的な課題を解決できるよう、各分野の領域や課題を整理し、関係機関や地域の連携を深めチームで取り組んでいくことが重要である。 | 総合判定 |
| | | 3 |

【総合判定】3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

| | |
|--------|--|
| 今後の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・重層的支援体制の構築に向けて、複合的な課題抱える方を包括的に支える仕組みづくりを各関係機関と協議していく。 |
|--------|--|

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和4年度評価シート⑨

| | | |
|----------|------|---|
| 地域福祉計画体系 | 基本目標 | 3 安心して暮らせる地域づくり |
| | 方向性 | (2) 防災、防犯、緊急時体制の整備 |
| | 推進目標 | ⑨ 災害に強い地域づくりを目指します |
| | 実施計画 | 災害救援ボランティアセンターの体制強化 |
| | ねらい | 災害発生時のボランティア活動を効率よく行うために、災害救援ボランティアセンターの機能強化を図るとともに、センター運営について市との連携を図ります。 |

| 指標の名称 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------------------|-------------|-----|------|----|----|----|
| 成果を 主たる 指標 | 訓練・研修への参加者数 | 25人 | 115人 | | | |
| | | | | | | |

| | | |
|---|---|--|
| 主な 取り組み | ■市と社協との災害に関する連携強化 | |
| | ・市の総合防災訓練と合わせて、災害救援ボランティアセンター運営訓練と福祉避難所開設訓練を実施した。(市と社協) | |
| | ・災害時の初期対応に必要な備品を購入準備した。(市と社協) | |
| | ■ボランティア団体、企業など民間組織との連携強化 | |
| | ・となみ青年会議所と市と社協の3者で「災害時における連携に関する協定」を締結した。(企業と市、社協) | |
| | ・災害救援ボランティアセンター運営訓練となみセントラルライオンズクラブとなみ青年会議所、民生委員児童委員等に参加していただいた。(企業と地区、社協) | |
| | ■実際の災害を想定した訓練の実施 | |
| | ・災害救援ボランティアセンター運営訓練で、受付、ニーズ調査、マッチング、送り出しと実際のセンター運営を想定した内容で実施した。(企業と市と地区、社協) | |
| ・大雨による被害のあった南越前町へ視察を行い、実際に開設されたセンターの運営等についてうかがった。(社協) | | |
| ■地域住民を交えた訓練の実施 | | |
| ・市の総合防災訓練と合わせて、災害救援ボランティアセンター運営訓練と福祉避難所開設訓練を地域住民と実施した。(地区と市、社協) | | |
| ■災害救援ボランティアセンターの支援体制ネットワークの構築 | | |
| ・企業、地域の福祉関係者、行政に参加いただき、災害救援ボランティアセンターネットワーク構築研修会を開催した。 | | |

| | | |
|----------|---|------|
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・となみ青年会議所と災害時における協定を結ぶことができた。企業と地域、行政と一緒に運営訓練と研修会を開催できたことで、センターの機能やそれぞれの立場の役割を理解することができた。 ・南越前町を視察したことで、職員のセンター運営のイメージを明確にすることができた。 ・研修会において講師より、スムーズなセンター運営にはICT化が必要と提言をいただいた。運営訓練にどのようにICTを活用していくかが課題である。 | 社協判定 |
| | | 3 |
| 評価委員会の意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・実際に災害が起こったことを想定して訓練を行うことが重要である。関係機関だけでなく、地域住民も積極的に参加できるよう仕組みづくりを行ってほしい。 ・ICT化を活用した事例の勉強会を開催してほしい。 | 総合判定 |
| | | 3 |

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

| | |
|--------|---|
| 今後の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した運営訓練を実施できないか検討していく。 ・視察で得たことを運営訓練に活かしていく。 |
|--------|---|

| 第4次砺波市地域福祉活動計画 令和4年度評価シート⑩-1 | | |
|--------------------------------------|------|--|
| 系 地 域 福 祉 計 画 体 | 基本目標 | 3 安心して暮らせる地域づくり |
| | 方向性 | (3) 安心して暮らせる基盤づくり |
| | 推進目標 | ⑩-1 福祉の情報をわかりやすく伝えます |
| | 実施計画 | 情報発信や情報共有を行えるプラットフォームづくり【重点計画】 |
| | ねらい | 地域の中で誰もがが必要な福祉サービスなどを安心して利用できるように、情報収集と情報発信の充実を図ります。 |

| 指標の名称 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|--|---|------|------|----|----|----|
| 標 成 果 を 図 る 主 な 指 標 | HP・ブログの更新回数 | 167回 | 291回 | | | |
| | | | | | | |
| 主 な 取 り 組 み | <p>■市内の福祉情報を集約し受発信する方法の検討</p> <p>・市と社協のホームページについて協議し、令和5年度市のホームページと連携した新しいホームページに更新することとなった。(市と社協) ・ボランティアや地域福祉コーディネーター、民生委員児童委員等を対象にこれからはじめる情報発信講座を開催した。</p> | | | | | |
| | <p>■広報や回覧板、SNS等を活用し、誰でもわかりやすい情報発信</p> <p>・ツイッターとインスタグラムでの情報発信を始めた。(社協) ・大学生にふくしインフルエンサーになってもらい、若者目線で福祉の情報を発信してもらった。(大学生と社協)</p> | | | | | |

| | | |
|--------------------------------------|--|------|
| 成 果 と 課 題 | <p>・福祉情報の発信について市と協議を行ったことで、令和5年度に社協のホームページをリニューアルすることとなった。市と連携し、福祉情報のプラットフォームとなるようなホームページを検討していくことが重要である。</p> <p>・ツイッターなどのSNSに取組み、世代や情報内容に合わせた情報発信を行ってきた。福祉センターの情報をSNSで取り上げることで、親子世代の利用につながっている。</p> <p>・大学生によるふくしインフルエンサーを立ち上げたが、十分に活用できていないことが課題である。</p> <p>・福祉活動者が自ら活動を発信していくことが重要であることから、これからはじめる情報発信講座を開催し、発信することの重要性と気軽さを理解することができた。</p> | 社協判定 |
| | | 2 |
| 評 価 委 員 会 の 意 見 | <p>・福祉情報をどんどん発信・更新するとサービス利用につながると思う。SNSの活用が進んでいることは良い。</p> <p>・大学生によるふくしインフルエンサーが立ち上がったことは評価できるが、十分に活動できていないことは残念である。今後の取組みに期待したい。</p> | 総合判定 |
| | | 2 |

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

| | |
|---------------------------------|---|
| 方 向 性 の 今 後 の | <p>・ふくしインフルエンサーの活動を推進し、若い世代の視点から福祉の情報を発信していく。</p> |
|---------------------------------|---|

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和4年度評価シート⑩-2

| | | |
|----------|------|--|
| 地域福祉計画体系 | 基本目標 | 3 安心して暮らせる地域づくり |
| | 方向性 | (3) 安心して暮らせる基盤づくり |
| | 推進目標 | ⑩-2 地域の中の社会資源を活用し、多様な福祉課題に対応していきます |
| | 実施計画 | 移動支援など生活課題の検討 |
| | ねらい | 地域の社会資源を活用し、移動に不便を感じておられる人の移動支援や生活課題などについて検討します。 |

| 指標の名称 | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---------------|----------------|------|------|----|----|----|
| 主な指標 成果を図る | ふれあい号の利用者数(延べ) | 477人 | 525人 | | | |
| | 福祉バス利用回数 | 25回 | 54回 | | | |

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 主な取り組み | ■ふれあい号のあり方の検討 ・ふれあい号友の会総会を開催し、運転ボランティアの意見を伺った。(ボランティアと社協) ・運転ボランティアの法定講習の受講機会を増やし、養成講座修了者の確保に努めた。(企業と社協) | | | | | |
| | ■福祉バスの活用 ・梅檀山地区が住民の買い物支援のため福祉バスを活用した。(地区と社協) | | | | | |
| | ■既存の社会資源の確認と活用 ・市内に4つのこども食堂が開設された。(こども食堂) ・困窮者世帯の支援で、フードバンクより食料支援を得ることができた。(NPOと社協) ・チョイソコとなみにより、気軽な移動手段が増えた。(市) | | | | | |
| | ■市内の福祉団体と生活課題に対する対応の検討 ・市と医師会、社会福祉法人連絡会で6回の相談会を開催し、ニーズの把握と課題解決に努めた。(市と医師会、福祉団体) ・事例検討会のまとめを行い、課題の傾向と解決するための社会資源について検討した。(福祉関係機関と社協) | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

| | | |
|----------|--|------|
| 成果と課題 | ・サロン等の地域活動が増えてきたことから、福祉バスの利用が増えてきた。地域の課題(買い物や外出が難しい)を解決するため福祉バスを活用した。 ・市営バス以外に「チョイソコとなみ」という新たな移動手段が増えた。令和5年10月からは市内全域となる予定である。事前登録が必要であることや運行時間が決まっていることから、利用に向けた支援が必要な場合がある。 | 社協判定 |
| | | 2 |
| 評価委員会の意見 | ・チョイソコとなみの新しい移動手段が増えたことは良い。今後、市民の足として定着、発展していくよう、情報発信や利用の仕方の支援などを行ってほしい。 ・地域の実情に合わせた新たな取り組みができたことは良い。今後も地域の課題解決に向けて、継続して支援していくことが重要である。 | 総合判定 |
| | | 2 |

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

| | |
|--------|--|
| 今後の方向性 | ・その方に合った移動手段を提案していく。 ・地域課題の把握を行い、地域の方と一緒に解決に向けて取り組んでいく。 |
|--------|--|